



マスク姿で間隔を空けてすわり、アクリル板で仕切るという万全の感染対策をした会場（6日の開会式にて）

## 日本教師会 第60回教育研究大会開催

8月6・7日 神戸市にて

コロナ感染第七波で心配されたが、三年ぶりに教育研究大会が開かれ本会から四名の会員が参加した。主管は兵庫県教師会で、新神戸駅に近いホテル北野プラザ六甲荘が会場であった。

研究主題は「学びに向かう力・人間性をどのように身につけさせるのか」で、新学習指導要領の求める目標の一つに焦点を当てたものであ



岐阜県教育懇話会  
〒503-0023  
大垣市笠木町 229-5  
(0584) 91-2478  
口座番号 00800-3-5390

### 綱 領

われわれは歴史と伝統を尊重し、日本にふさわしい中正な教育を推進する。  
われわれは教育と品位の向上につとめ、真摯な精神とともに、明るく純粋な教育を研修する。  
われわれは個人の自主尊厳を尊重しつつ、政治的中立を厳守し、主体性を堅持する。

来賓の  
全国教職  
関係神職  
協議会会  
長 佐子氏

た。文科省は学習指導要領に「生きる力」をスローガンに掲げて二十年以上になるが、今日、世界の情報化・グローバル化の進展が著しく、我が国の地位の低下が危惧される中、目標をより具体的に示してその実現を確かにしようとしたのである。

この目標の中身として日本教師会が積み上げてきた日本人として生きるための資質・能力がよく当てはまり、兵庫県教師会の研究主題の採り上げ方は実に的確であった。

○ 開会式は後藤副会長の開式の辞の後、国歌静聴（コロナ対応のため）、会長挨拶、地元歓迎挨拶、来賓祝辞と続いた。

若井会長は、本会が創立後にいち早く教育基本法の改正を主張し、その実現の後押しをした歩みなどを述べ、この六十回という節目の大会を機に初志の理念と理想を引き継いで行きたいとされた。

兵庫県教師会の赤司会長は自身のサッカー部の練習を例に、教師の正しい指導こそ生徒の成長ばかりでなく生命を守ると強調された。

らは、我が国がGHQによる占領政策の影響を未だに受けている現状を問題とし、共に同じ志をもった会として手を携えていきたいとして祝意を表明された。

初日の最初の研修は、阪南大学教授平山弘先生の「日本の伝統と歴史をどのように教育に生かすか」をテーマにした基調講演（要旨は次頁に掲載）であった。

次いで実践発表が二つあり、高等学校からは「部活動を通じた人間性の育成」を北京五輪女子マラソン選手であった中村友梨香先生が報告された。

自身の中学・高校の陸上に打ち込んだ経験の中から、部活動により生き方を学び、人間性を養われることを話され、現在、その部活動が地域に移管されようとしていることに疑問を呈せられた。

中学校は西脇市立橋丘小学校教頭の柳川瀬輝彦先生で、「やりとげる力を培う道徳教育」オリリンピック選手との交流を通して」という題で、やはり兵庫出身の陸上中距離の日本記

録保持者を学校に招聘して、子供達がどういう学びができたかを報告されたが、それはスポーツ庁の依託事業「オリリンピックムーブメント事業」を活用しての実践であった。

○ 初日最後は総会で、令和三年度の事業報告と会計報告、令和四年度の事業計画と予算案について審議を行った。本会に関わる事業として、令和五年度教育研究大会を岐阜で行うことが決まった。

二日目は特別講演「皆様の『生命力』の倍增を」という元陸上自衛隊西部方面隊総監部幕僚長福山隆氏の話が始まった。

氏は自衛隊の連隊長時代にオーム真理教による地下鉄サリンの除染という命がけの体験を通して、日本人の心の貧しさを思い知った。そこで人間の魂を救うのは宗教であると考へ、カトリックや中村天風氏の「心身統一法」による心身の健康法に目覚められたという。

実践発表は「小学校外国語教育における学びに向かう力。人間性等をどのように身につけさせるか」で、丹波篠山市立八上小学校教頭石井健一先生が報告された。

外国語教育はとくく受け身になりがちであるが、先生は児童の意欲を引き出すため「相手が喜ぶメニュー



づくり」をさせる指導を、会場の会員を使って演示された。また人間性の育成は人との関わりによって出来るという考えのもと、地域や観光客との交流を生む「地域案内図」づくりを紹介された。

特別実践発表として本会から松橋慎吾先生が「日本教師会と私」と題して、最近刊行された著書『これでもかこれでもか』の紹介をされた。

最後に二日間の研修の総括を皇學館大学渡邊教授が行い、今回の研究主題に対してそれぞれの発表がどのような位置づけになるか話された。

閉会式は最初に次期開催地の岐阜県教育懇話会会長が挨拶を行い、次いで「日本教師会の歌」を聞き、佐々木副会長の閉会の辞で研修会を締めくくられた。

### 基調講演 (研究紀要からの抄録) 日本の歴史と伝統をどのように 教育に生かすのか

阪南大学流通学部教授 平山 弘

#### 一、問題意識

これまでの日本社会や国際社会においては、国際化やグローバル化、情報化・IT化に進むということは非常に前向きで素晴らしいこと、の代名詞のような使われ方やポジティブな意味合いを持っていたと推察され

るが、二十一世紀におけるグローバル化の持つ負の部分の顕現はテロの発生やテロリスト同士の地下奥深くでのつながりを呼び起こし、無辜の民である一般市民を巻き込むかたちでの殺戮が平然と行われているのが現実となっている。

我が国の周辺域を見回してみても、中国海警による尖閣諸島への日常的な領海侵犯や中国軍艦の接続水域への侵入などは日に日にそのパワープレゼンスを増し、具体的な行動遂行能力を誇示している。

また、新たな冷戦時代に突入した米ロ対立の中。ロシアはウクライナ侵略を機にロシア空軍の領空侵犯並びに防空識別圏への侵入・接近の常態化、海軍の北海道周辺海域での演習や津軽海峡の通過している。

北朝鮮も度重なる弾道ミサイルの発射を行い、我が国を取り巻く軍事情勢は非常に厳しい状況である。

翻って、我が国の国内情勢、特に経済面でのバブル経済崩壊以降の失われた二十年とも三十年とも言われる長期的なデフレにより、一時的にアベノミクスにより国内経済は若干のプラスに転じたが、その後財務省主導の緊縮財政圧力により、十分な日本経済の活力を生み出していない状況にあると考えられる。

このように、我が国の状況は内憂

外患の様相を呈しているが、さらにこれまで皇室の彌栄を祈念してきた多くの日本国民にとっても、近年の皇室を取り巻く環境の変化やSNSによるさまざまな観点からの情報発信により、また本来皇室を守るべき政府・宮内庁・外務省・警察庁・皇宮警察の組織上の課題や守秘義務の面でも昨今の週刊誌報道からすれば、我が国の国力を削ぐ、国体(国柄)の方向性を二分する非常に大きな転換期にもなっている。

以上見てきたことから、我が国の将来を見据えた場合に、やはり日本の伝統と歴史をどのように教育に生かすのか、どのように革新していくのか、そのために必要な戦略や戦術とは何かが重要と考える。

#### 二、犬橋(いぬぞり)とスノーモービル

石川直樹写真展『この星の光の地図を写す』を二〇一八年十月二十九日に北九州市立美術館別館で鑑賞した際の衝撃はマーケティング研究者として、再度人間にとつての「しあわせ空間」とは何か、「コンビニエントな世界観の本質」とは何か、について、いろいろと考えさせられた。

犬橋(犬ぞり)Ⅱローカル化、スノーモービルⅡグローバル化と表現するならば、「コンビニエントな世界と不便な世界」、「世界の中心(中央

と辺境の意味」、「自然との共生と自然破壊・自然環境の変革」、「伝統的な生活の知恵と世界共通の標準化」、「野生と都市生活の脆弱さ」という現代社会が抱える二面性、光と陰の世界について体感し、直視する勇氣を持つことの重要性が説かれていると判断できた。

#### 三、フラット化する世界とスパイキ―な世界

グローバル化の進展はあらゆる障壁が低くなり、ヒト・モノ・カネ・情報が高いところから低いところ、あるいは逆流するかたちで低いところから高いところに流れていく。そのようにフラット化することから、逆にそのことは既存のルールや枠組み、既存社会で生きる人々が住む世界やその世界観に新たな競争ルールや枠組みをもちこみ、当然そこにはさまざまな摩擦と軋轢を生み出すことになる。

インターネットがグローバル化を生み出し、自由な個人が自分自身の考えや主張をネット上での情報発信できるという意味で、それまでの世の中的には情報が高いところから低いところに流れるという常識が覆され、生産者やサービス提供者の優位性がインターネットの出現によりタイムリーにさまざまな情報を検索・収集・データベース化できる時



代の到来で、情報の非対称性が解消され、平準化されてきている。

#### 四、中世シャンパーニュ地方の交易市—プラットフォームの原型—

レイ・フィスマン&ティム・サリバン(SO)は「プラットフォームビジネスの真髄は、ウーバーやアマゾンよりフランスに学べ」において、中世フランスのシャンパーニュ地方では定期的に「シャンパーニュの大市」が開催され、そこではシャンパーニュ伯が市(いち)の参加者に平等な法的保護を与え、保証制度を標準化することで、数多くの商人や取引を行う人々を呼び込む一大プラットフォーム(経済的基盤かつ社会的基盤)としての機能を確立したのである。

我が国においても、古来から「市」が存在しており、特に織田信長公が安土桃山時代に設置し発展させた「楽市・楽座」は同様の機能を持ち、日本の有力なプラットフォームとして位置づけられるべきであろう。

#### 四、ツリーとリゾーム

ドゥルーズ&ガタリ(1980)によれば、ツリー構造が一本の木のようには幹や枝から構造的に構成されているのに対して、リゾームは植物の地下茎ということで、表面からは見ることが出来ず、全体像が見通せず、それが複雑につながっている状態のこと

を表している。

小野・大城(2004)の解説では、ドゥルーズがツリー構造を批判しているのは、「物事を考える際に整理して考えようとする」という動いている現実を固めてしまう」ということであり、反対に「縁遠いものでも平気で結びつく生命力溢れる自在な思考」をリゾームと呼び、現在の社会のように日々刻々と変化する社会は「リゾーム社会」と表現できる。

#### 五、神社と祭り

自然を崇拝し、日本列島の四季折々の自然のすばらしさを愛でながら、一方で台風や地震などの災害に恐れおののきながら自然の脅威に對し、嵐の過ぎ去るのを待ってきた日本民族の姿。

日本人と神社の関係はいつの時代にあつてもその関係は時代のうねりの中で濃淡はあつたものの、新年を寿ぐ際にはお正月の三が日には地元の神社や有名な神社を参拝したり、お宮参りや七五三ではこどもたちの健やかな成長を祈念して神社にお参りをする。また、受験の際には京都の北野天満宮や大宰府にある太宰天満宮を始めとする、菅原道真公をお祀りしている全国にある一万二千社ある天神さまに祈願したりするのは誰しも経験のあることであろう。そして、年二回の身に降りかかる罪・穢れを祓い清める「夏越大祓」と大晦日には「大祓」が執り行われている。

神社には祭りは付きものであり、古来から脈々と受け継がれてきているお祭りも我が国には数多くあり、日本の伝統行事として地元の方々や遠来からの見学者も含め、海外からの観光客も祭りの雰囲気を楽しんだり、自国にはない儀式に関心を寄せて来日する外国人も増加している。

#### 六、日本の伝統と歴史を教育に生かす

日本の伝統と歴史を教育に生かすという事例は全国に多数見られる。

石川県小松市には子供歌舞伎「勸進帳」実行委員会があり、そこでは一九九九年(平成十一年)から開催されている「全国子供歌舞伎フェスティバル」小松において、源義経が弁慶らとともに都落ちし、途中の安宅の関で関守富樫氏の三者が登場する、「智・仁・勇」のストーリーをこどもたちが演ずる姿は非常に尊いものであり、後世に伝えていくべき日本精神を体現している。

道徳教育の観点からも「勸進帳」に代表される「智・仁・勇」のストーリー性あふれる展開、小中学生が自ら演技することを通して、またクラス仲間や市内の同年代の児童・生徒が演ずるさまを見て、人間が成長する上での相手を思いやる心であつたりとか、智慧をはたらかせ、勇氣を鼓舞することで、新たなステージに到達すること、新たな価値を創造することの大切さを学ぶ、こうした観点からも非常に有益な日本の伝統と歴史を教育に生かしている実践である。

#### 七、日本社会の劣化「勇を持つ教育」を考える

日本の教育について、「智・仁・勇」の観点から考えると、知(智)の教育、仁の教育については、普段の授業や道徳教育の時間、ホームルーム活動、年間を通じて計画された行事などを通じて学ぶ機会が数多く提供されていると考えられるが、果たして真に「勇」を学ぶ機会はあるのか。以下になつていくのであろうか。以下にいくつかの問いを示すことにする。

- ①物理的暴力に對して戦う気持ちを喪失させられた日本人
- ②SNS上の暴力的なコメントに無関心な日本人
- ③ツリー型構造では把握ができないリゾーム型社会の到来
- ④冒険心 体験値・経験値の貧困状況
- ⑤道徳教育は物理的暴力や言葉の暴力に對して自分の命を賭してまで他人の子供や弱い立場の人の命を救おうとする気持ちを芽生えさせること



ができるのか？

⑥武に対する尊敬の念を持たせることができるのか？

ここで問うている勇は沈勇(落ち着いて勇気のあること)や義勇(①忠義と勇気。また正義の心から発する勇気。②みずから進んで公共のために力を尽くすこと)、知勇・智勇(知恵と勇気)である。

やはり、ここにも日本の教育を少し深掘りしようとすると、「武」に対する軽視あるいは避けたいという感情が見え隠れする。それはたとえば日本の自衛隊に対する国民の評価及び態度に見られる。

アメリカにおいて軍人は一般の国民からも非常に尊敬され、一目置かれている存在である。日本ではなぜかしら、制服を着用しての交通機関の移動や学校訪問ですら極々限られており、多くの場合は制服ではなくスーツの着用で自己規制化されているということ、日米の軍人・自衛隊員に対する扱いはまったく異なっている。

しかし、現在はこうした軍人・自衛隊員・武に対するイメージが改善する負の出来事が起こった。それが自然災害の多発による災害派遣である。日本国民を守る最後の砦として再確認されることで、自衛隊に対するアレルギーや無理解が多少なりと

も解消されるに至ったのである。

現在の日本において、人気のある漫画・アニメに『キングダム』があり、原泰久氏が執筆している作品である。ここで筆者が注目したいのは、歩兵が五人一組となつて、対戦相手と戦うときに組する「伍」という戦法である。

相手が武器を保持し、圧倒的な力を持つている場合に、あるいは偶然乗り合わせた公共交通機関で目の前にそうした状況に遭遇した際の対処法としては、日本国内の有識者はまずその場からの離脱を勧めるが、そのような余裕がなく、まさに目の前の危機に際して、武道や何らかのスポーツ経験者、一般的な人も含め、この伍を組する態勢で、砲や傘、上着などを防壁にして、相手の突進や攻撃を一人が受けている瞬時に他の人員が攻撃や相手の武器を叩き落とすなどの初期制圧の訓練を、少なくとも小学校から始め、中学・高校でもそうした自らの身体は自分で守るという勇の部分鼓舞する道徳教育としての導入も、智仁勇の実践版としての位置づけが必要である。

いじめ問題を一つとつても、被害者側の児童・生徒は決して泣き寝入りすることなく、保護者も自分のこどもの監督義務があるので、ここですうところの「勇」をもって、戦う

姿勢を見せることがいじめ問題解決の第一歩である。

## 八、結論

日頃児童・生徒が日常的に受けている授業だけでなく、千の顔を持つがごとく、彼らがそれぞれの立場から自分自身を見つめ直すことができるよう、教師としては助言を行う必要がある。一見困難な課題や問題を苦勞してでも飛び越える、ものごとくにチャレンジさせることの重要性がクローズアップされることになる。加えて、その課題を達成した暁には心身の充実にもつながり、次の段階へアップグレードすることになる。

こうした「経験価値」はシュミット(1998)の経験価値マーケティングの定義の中にあり、それは「顧客の経験(価値)に焦点を当てる。経験(価値)は、出会い、経験、さまざまな状況下で生活してきたことの結果として生まれ、経験(価値)は感覚(sense)、感情(heart)、心・精神(mind)への刺激によって引き起こされる」として、出会いや経験の重要性を指摘しており、その際の刺激がカギを握っている。

ここに日本の伝統と歴史を刺激として出会いの場や経験する場にはめ込むことで、新たな価値の創造につながるということをわれわれ教員は再認識することが求められている。

## 微風烈風

SNSの世界では短縮言葉がナウイといえます▲言語は民族、国家形成の重要な要素です。ロシアはウクライナ国内でロシア語を話す人達の独立を援助するために戦争に訴えたといえます。そして占領した地域の小学校でロシア語の勉強をさせようとしています。ウクライナを支援するポーランドの音楽家シヨパンの曲がもの悲しいのは、ロシアに祖国を分割された現実があったからでした。ノーベル賞を受賞したキューリ婦人は敵対国の言語を強要された哀しみの体験を持ち、フランス少年も「最後の授業」を受けたことは誰もが知るところです▲一つの言語で続いた日本ではそのようなことはありません。日本の当たり前は紛争国にあつてはあこがれです。我が国では長らく源氏物語の作者と読者は言葉でつながっていました。一つの国語は古今を貫通して、全国を繋いで日本の柱となってきたのです。

英語が最新で日本語はグサイという風潮が乱れの底流となつてゆきます▲外国の例をみて我が身を正しませんか。日本語の特徴である敬語です。丁寧語、尊敬語、謙譲語がどれ程人と人との軋轢をなくし、自分を豊かにしてくれるのか、交流から学びましょう。その姿を訪日外国人は尊敬(リスペクト)するのです。(Y)